

令和 8（2026）年度

事業計画書

学校法人 北辰学堂

【令和8年度施策】

令和8(2026)年度は、中期計画(令和7~11年度)の2年目にあたり、前年度に整備・試行してきた教学体制および学生支援体制を、実践を通じて定着させるとともに、その質的向上を図る段階に位置付ける。

本法人は、設置校である育英館大学において、「地域社会に根ざしつつ、グローバルな視野を持った大学」としての機能を一層明確化し、各施策を相互に関連付けながら着実に推進することにより、建学の精神の具現化を目指す。

1. 令和8年度の基本目標と施策

1-1. デジタル技術を活用した実践的教育の強化

- ・「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」については、令和6(2024)年度に文部科学省認定を受けた「リテラシーレベル」および「応用基礎レベル」のプログラムを基盤として、前年度の実施状況を踏まえた教育効果の一層の向上を図る。
- ・ロボット制御、メディア表現、CG等の科目群については、教材および授業実践の蓄積を進めるとともに、学生の学修成果を踏まえた実践的能力の育成に資する教育の定着を目指す。
- ・ハイブリッド型授業については、安定的な運用体制を確立するとともに、オンライン学修環境の操作性や学修支援機能を通じて、学修の質的向上を図る。

1-2. 地域社会と連携した人材育成の推進

- ・稚内市および豊富町との協働による児童・生徒への学習支援事業については、前年度の取組を継続しつつ、地域における本学の教育的役割をより明確なものとする。
- ・地域公開講座については、引き続き市民に対する生涯学習の機会提供を行うとともに、講座構成やテーマ設定の工夫により、参加者の満足度向上を図る。
- ・本学では、これまで「ソフトウェア制作演習」等の科目において、地域の課題やニーズを題材とした実践的な教育を実施してきた。令和8(2026)年度においては、これら既存の取組を地域課題解決型PBLとして体系的に整理し、教育上の位置付けを明確化するとともに、地域との連携体制の高度化を図る。

1-3. グローバルな視点を持った教育の充実

- ・留学生別科においては、教育内容および生活支援体制の充実を図りつつ、引き続き東南アジア、中央アジア、西アジア地域を中心とした留学生の安定的受入れを推進する。

- ・留学生別科から本学学部への進学率向上を目的として、別科と学部が連携した指導体制の運用状況を検証し、必要に応じて改善を行う。
- ・京都キャンパスにおいては、多文化共生をテーマとした交流イベント等を実施し、学生および地域社会における国際理解の深化を図る。

1-4. 学生支援とキャリア形成の充実

- ・稚内本校の「学生相談室」および京都キャンパスの「学生総合相談室」を中心に、前年度の相談対応実績を踏まえ、学生一人ひとりの状況に応じたきめ細かな支援の充実を図る。
- ・就職支援講座については、継続的に実施するとともに、社会保障制度や労務に関する基礎知識を含む内容の整理・充実を図り、実践的なキャリア教育を実施する。
- ・資格取得奨励制度については、周知方法の改善を通じて学生の利用促進を図り、学修意欲の向上につなげる。

1-5. 教育研究の質の向上

- ・教育成果、地域連携活動および研究活動について、前年度までの取組を踏まえた情報整理を行い、学内外への発信を継続的に実施することにより、本学の教育研究活動の可視化と評価の向上を図る。

1-6. 持続可能な大学運営基盤の確立

- ・学生募集については、SNSの活用およびプライベートオープンキャンパスにおける個別対応を継続・発展させるとともに、前年度の募集活動の成果と課題を踏まえた改善を行い、志願者の確保および定員充足を目指す。
- ・京都キャンパスの認知度向上に向けては、高大接続事業の強化、指定校の拡大、通信制高校等との連携を計画的に進め、安定的な学生確保につなげる。

2. 財務運営に関する方針

- ・学納金収入の安定的確保を図るため、入学者数の確保を引き続き最優先課題とし、特に留学生別科から学部への進学率向上に重点的に取り組む。
- ・補助金・助成金の獲得および外部資金の導入について、情報収集と申請体制の整備を進め、法人全体の財務基盤の強化を図る。